

# NEWS LETTER KUMAMOTO

2020.Winter Vol. 119

■発行：一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団  
 〒860-0806 熊本市中央区花畑町4-18 熊本市国際交流会館  
 ■Publisher: Kumamoto International Foundation  
 4-18 hanabata-cho, chuouku, kumamoto city, 860-0806  
 TEL:096-359-2121/ FAX:096-359-5783  
 e-mail: pj-info@kumamoto-if.or.jp URL:http://www.kumamoto-if.or.jp/



## 《特集》 熊本市外国人総合相談プラザ ～多文化共生総合相談ワンストップセンター開設～

生産年齢人口の減少に伴う人手不足を背景に外国人財の受け入れが急増しています。2019年4月には新しい在留資格を創設する改正入管法が施行され、今後、在留外国人がますます増加していくことが予想されます。

そんな中、国は都道府県、指定都市及び外国人が集住する市町村約 100 か所において、地方公共団体が情報提供及び相談を行う一元的な窓口である「多文化共生総合相談ワンストップセンター（仮）」を設置することとなり、県内も県庁内と熊本市国際交流会館にそれぞれ設置されました。

会館では2階に「熊本市外国人総合相談プラザ」として9月にオープン、市長をはじめとして多くの関係者の方々に出席していただき開所式を行いました。

開設にあたり、熊本市長大西一史氏よりメッセージをいただきました。

本市ではこれまで、昭和54年（1979年）に中国・桂林市と初めて姉妹都市を締結するなど、早くから積極的に国際交流に取り組んでまいりました。

そのような中、変動する国際社会の中で地方レベルでの国際交流を一層進めるため、平成6年（1994年）9月に熊本市国際交流会館をオープンし、



熊本市長 大西一史氏

本年で25年を迎えました。

当会館の設立当初から本市では、（一財）熊本市国際交流振興事業団との政策連携のもと、多くの市民の皆様の御協力をいただきながら、在住外国人等への情報やサービスの提供、交流事業など国際化の推進に取り組み、多くの経験やノウハウ等を蓄積してまいりました。

その結果、平成28年熊本地震発生の際には、外国人避難所を開設するなど迅速な対応を行うほか、あらゆる相談への対応、日本語習得の支援、交流機会の創出など様々な取組を行い、多文化共生社会づくりを推進する拠点施設として、多くの市民の皆様に御利用いただいているところです。

《特集》

熊本市外国人総合相談プラザ開設・・・P1～3

活動報告「外国人とドンドン語ろう」・・・P4

国際交流会館25周年にあたって・・・P5

目次

Contents

「災害時に外国人に従事する職員の研修」・・・P6

世界を知る～It know the world～・・・7  
 青年海外協力隊OB 本田 倫子さん

ちょっと日本語/きふプロ  
 令和2年度賛助会員・・・P8

# 《特集》 熊本市外国人総合相談プラザ

さて、本市に暮らす外国人数は年々増加し、現在は6千人を超えています。その中でも少子高齢化・労働力不足を背景として外国人労働者が急増し、多国籍化も進んでいるのが特徴です。また、出入国管理法の改正に伴い、今後更なる増加が見込まれ、外国人の皆様が安心して生活することができる環境の整備が急務となっております。

開設当日は、外国人コミュニティや本市で働く外国人の皆様も駆けつけ、市長との意見交換「市長とドンドン語ろう！with外国人市民」にも参加していただきました。その中には、「困っている」、「ここがおかしい」、「こうすればもっとよくなる」などの御意見や御提案をいただき、大変良い機会になりました。

これらの御意見等も踏まえ、今後とも外国市長と語ろう with 外国人市民の様子人・日本人ともに、地域社会の一員として安心して暮らしていくことができる共生社会の実現に向け、更なる取組を推進し、「世界に認められる『上質な生活都市』」を目指してまいりますので、皆様方にはなお一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。



センター開設テープカットの様子

その対応策の一つとして、これまでの相談体制や対応言語、相談分野を拡充し、生活全般に関する様々な相談や情報提供を行うワンストップ型の窓口として、9月1日に「熊本市外国人総合相談プラザ」を開設したところです。

## 熊本市外国人総合相談プラザ

開館時間 午前10時～午後6時 休館日 第2・第4月曜日、年末年始（12月29日～1月3日）

TEL:096-359-4995（直通）

URL <http://www.kumamoto-if.or.jp/plaza/>

E-mail : [soudan@kumamoto-if.or.jp](mailto:soudan@kumamoto-if.or.jp)



熊本市外国人総合相談プラザでは下記のスケジュールでさまざまな相談を受け付けております。

### ●外国語相談

相談窓口	相談内容	相談日	時間
スペイン語相談	一般的な生活相談	毎月第1金曜日	13:00～17:00
タガログ語相談	一般的な生活相談	毎月第2水曜日	13:00～17:00
韓国語相談	一般的な生活相談	毎月第4水・木曜日	13:00～17:00
ベトナム語相談	一般的な生活相談	毎月第3水曜日、第3日曜日	13:00～17:00
中国語での生活・教育に関する相談	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般的な生活相談から教育に特化した相談</li> <li>相談に関連した通訳・翻訳業務</li> <li>出張相談</li> </ul>	週3回（水・金・土もしくは日曜日）	13:00～18:00

### ●国際交流員による相談

相談窓口	相談内容	相談日	時間
中国相談	中国に関する相談	毎週火曜日	13:00～17:00
ドイツ相談	ドイツに関する相談	毎週水曜日	13:00～17:00
韓国相談	韓国に関する相談	毎週木曜日	13:00～17:00
アメリカ相談	アメリカに関する相談	毎週金曜日	13:00～17:00

# 《特集》 熊本市外国人総合相談プラザ

熊本市外国人総合相談プラザでは下記のスケジュールでさまざまな相談を受け付けております。

## ●熊本県弁護士会による相談

相談窓口	相談内容	相談日	時間
外国人のための無料法律相談（要予約）	法律に関する相談全般	毎月第3土曜日	14:00～16:00

## ●熊本県行政書士会による相談

相談窓口	相談内容	相談日	時間
出入国管理法及び同法関連法に関する無料相談	在留資格に関する相談	毎月第1水曜日、 第3日曜日	13:00～15:00

## ●外国から来た子ども支援ネットによる相談

相談窓口	相談内容	相談日	時間
外国にルーツを持つ子どものための教育相談	日本の学校への編入及び日本語指導に関する相談 受入校に関するアドバイス	毎週日曜日	13:00～15:00

## ●熊本労働局職業相談員による相談

相談窓口	相談内容	相談日	時間
労働に関する総合相談（労働相談）	労働時間や労働条件等に関する相談、 アドバイス	毎月第2火曜日	13:00～17:00

## ●居住支援協議会による相談

相談窓口	相談内容	相談日	時間
住居に関する相談（住まいの相談）	住まい探しの情報提供及び紹介、 アドバイス	毎月第3水曜日	13:00～17:00

## ●お仕事相談

相談窓口	相談内容	相談日	時間
外国人のためのおしごと相談窓口	就職のあっせん、相談、 アドバイス	毎月第2水曜日	10:00～18:00

※諸事情により曜日、時間等が変更になる場合がございますので、ご相談の際は事前にご確認されるようお願いいたします。



プラザを紹介する  
多言語でのチラシ  
も作成しました。

熊本県でも「熊本県外国人サポートセンター (Kumamoto Support Center for Foreign Residents)」  
を開設しました。

場 所: 県庁本館7階(国際課内) 〒862-8570 熊本県熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

相談時間: 月曜日から金曜日(祝日、12月29日～1月3日を除く)午前8時30分から午後5時15分まで

相談方法: 電話・相談フォーム(ホームページ)・来所

※電話 080-4275-4489

※来所される際は、確実にご対応させていただくため、事前にご予約いただくことをおすすめしています。

相談内容: 生活相談(在留手続、雇用、医療、福祉、出産・子育て・子どもの教育など)

コーディネーター(英語担当)、中国語担当、ベトナム語担当の計3名

対応言語: 日本語・英語・中国語・韓国語・ベトナム語・ネパール語・インドネシア語・タガログ語・タイ語・  
ポルトガル語・スペイン語・マレー語・フランス語・ロシア語・ドイツ語・イタリア語・マン  
マー語・クメール語・モンゴル語※(相談員が対応できない言語については、翻訳機や三者通話電  
話・テレビ電話による多言語通訳サービスを活用)

## 《活動報告》外国人とドンドン語ろう！

「熊本市外国人総合相談プラザ」が開設された9月1日は熊本市国際交流会館にとっても、開館25年目となり、それを記念して在住の外国人の方々と語り合うイベントを実施しました。

冒頭、「25歳の方は手を挙げて下さい」という言葉の投げかけから会は始まり、9月1日は

国際交流会館の25回目の誕生日ということで、集まってくださった参加者の方々とフレッシュジュースで



乾杯しました。熊本地震を経験しても、なお、この場所で歩みを止めることなく活動ができていることに感謝した瞬間でもありました。

このイベントの目的は3つありました。1つ目は、在住外国人と日本人の方とがざくばらんに交流する場を設けること、2つ目はその日に開設された「熊本市外国人総合相談プラザ」の紹介、そして3つ目は私たちが行っている事業の一つである「日本語支援事業」を、特に若い人たちに知ってもらうことです。

各テーブルに5～6人のグループに分かれて、座っていただき、交流を図りました。初対面同士で、なかなか話もできないのでは？という不安もありましたが、会が始まると各テーブルで日本語や英語を使ってのおしゃべりが始まり、笑い声さえ聞こえてきました。そんな中で、まず、日本語講師の道本ゆう子氏による「やさしい日本語」についてのお話がありました。ある統計では、外国の方に何かを伝える際に「英語」よりも、「やさしい日本語」で説明した方

が相手が理解できるそうです。外国人の方々と意思の疎通を図る際に、いつも使っている日本語に加えるちょっとしたコツを教えてくださいました。



後半は、その「やさしいにほんご」を使った実践です。テーブルに予め用意しておいた質問を使ったり、疑問に感じたことを直接尋ねて交流しました。各テーブルに分かれて、外国の方を囲み「日本語の学習方法」や「熊本の生活で困ったこと」、「熊本で好きな場所」等のテーマについて語り合ってもらいました。



「熊本の言葉をあなたの国の言葉で表してください」という問いでは「優しい」という言葉を選んだ方が多かったです。

参加者からは「（日本人の）自分が熊本のことを教えてもらった」、「こんなに日本語が話せる外国の人がいることに驚いた」など、少なからず、衝撃を受けた様子が見られました。

国際交流会館では、これからも外国人と日本人市民との交流の場所と機会を提供していきたいと思えます。

国際交流会館では、これからも外国人と日本人市民との交流の場所と機会を提供していきたいと思えます。



熊本市国際交流会館は9月1日で設立25周年を迎えることとなりました。これまで様々な変遷を経て現在の国際交流会館となっております。初代館長の古河幹夫氏にその歴史を振り返っていただきました。



古河 幹夫 (ふるかわ みきお) さん

初代熊本市国際交流会館館長

# 国際交流会館25周年おめでとう！

熊本市国際交流会館が出来て25年。建設に携わった者の一人として心からのお祝いを申し上げます。1970年代、我が国の都市において諸外国との姉妹都市とか友好都市といったものが進められ、これを契機として、市民レベルにおいて交流が盛んになってきました。熊本市も歴史적인つながりの深い中国の都市との締結を希望していた中、当時お互い観光立市を目指していた桂林市と、続いて地域や産業振興等をキーとしたアメリカ・サンアントニオ市、そして環境、医療の分野の相互研究ということで、ドイツ・ハイデルベルク市と友好・姉妹都市を締結しました。

特に、桂林市と友好都市を締結した頃は、市民もそれ程諸外国に仕事や観光等で訪れ、その地域の人々と交流を深めるというのはあまり無い時代でありました。その後時代の流れか、国際交流、国際化が一層進み市民の外国への関心も高まり、一方では留学生等在熊の外国人も年々増加し、彼ら、彼女らが勉学をする上で、また日常の生活をしていく中で役に立つ施設が必要との観点からそれらのステーションとして会館建設の話が持ち上がりました。

会館の前の建設は「みゆき会館」という名称で、特に文化の発展の場として市民に親しまれ利用されているところから、会館の名称も「みゆき」を残していました。熊本城への登り坂の「みゆき坂」という名称からとられたものと思われる。

当然のことながら、市議会の了承を得ていよいよ準備にかかった訳でありましたが、各県内

には外国人が集える場所が少なく九州でもあまりありませんでした。

中身の機能と関連して会館では色々と意を払ったことがあります。会館が利用者にとって使いやすいというのは勿論であります。万が一のときの地下にある貯水槽、目の前のお城、隣の市民会館との調和、加えて当時一般的に利用しやすい300人程収容のホールが少なかったためこの補完といったところです。

オープンして25周年という月日が経っていますがその管理・運営等時代の流れに即しており、時折訪ねてみると利用者の満足そうな雰囲気を感じ嬉しく思っています。

こういった施設を運営するのは、良くも悪くもそこに携わる人です。利用する人々のニーズをとらえた運営、対応の仕方が大切です。今後とも関係者の一層の頑張りを期待します。この会館が多くの人々の触れあい、学びそしてくつろぎの場として末永く愛されていけば、建設に携わった方々の喜びも一入（ひとしお）でしょう。

最後に最近あまり聞かないが実は国際交流会館には「タイムカプセル」といったものが存在します。

この後25年先に開くのでしょうか？



# 「災害時に外国人被災者支援活動に従事する職員の研修」

9月9日（月）に「九州沖縄地区の外国人防災にかかわる自治体職員等研修会」が自治体国際化協会（クレア）の主催により実施されました。

参加者は熊本を始め自治体職員や九州地区の地域国際協会、そして国際交流会館のスタッフを合わせて50名となりました。

この研修では熊本地震時に立ち上げた「災害多言語支援センター」の活動について振り返り、地震発生直後から災害多言語支援センターの閉鎖までを5段階のフェーズに分けて、誰が何をを行ったかを報告する形式で進めました。

研修会冒頭で、日本で初めて災害多言語支援センターが設置された2007年の新潟中越沖地震での外国人被災者支援活動について、クレア災害時外国人支援アドバイザーの（公財）柏崎地域国際化協会事務局長清水由美子氏に基調報告をいただきました。当時、情報が入ってこずに困る外国人被災者の様子、また、情報を届けることにより被災者

だった彼らが助ける側に回るようになったという話をいただき、災害時の情報提供の大切さを学びました。

その後は参加者を2つのグループに分け、災害多言語支援センターの活動経験の無いグループには「災害多言語情報センターの機能と役割」についての説明を、活動や訓練の経験があるグループでは実際にセンターを運営するに当たったの問題点や疑問点について意見交換をおこないました。

昼食には実際に避難所となった国際交流会館での炊き出しの様子を再現して、ジェットストーブを用いて温かい食事を提供しました。

午後からは熊本地震当時の「災害多言語支援セ

ンター」の活動を振り返りました。

4月14日の前震、そして16日の本震直後の様子や職員の安否確認についてのフェーズ1、主に多言語での情報発信活動を行っていたフェーズ2、外部からの応援が入ってきたフェーズ3、避難所訪問が可能となったフェーズ4、そして避難所及び災害多言語支援センターの閉鎖

に向かったフェーズ5の活動について、それぞれに携わった職員から報告と発表が行われ、アドバイザーのNPO法人多

文化共生マネージャー全国協議会副代表理事高木和彦氏がその活動の解説と説明を加えながら進行されていました。

今回のような内容での訓練は初めての試みでした。実際に実施してみて準備不足だった点や改善点もいくつか挙げられました。しかし他県・他都市から多くの関係者に集まっただき、日頃の活動で抱えている問題や疑問について率直に意見交換が出来たことや、何より、お互いに顔の見える関係を築けたことは大きな成果でした。被災し、避難所で不安を抱えている外国人に対して一方的な情報の発信だけでなく、実際に訪問し、顔を見て「安心」を届けることが災害多言語支援センターの究極の目的です。顔を見ることによって得られる安心感は被災者だけでなく支援者にとっても同様のものです。災害が起きた時に現地の自治体や国際協会の職員もまた被災者となっているケースがほとんどです。被災した市民や外国人に対して支援する立場にある関係者にとっても、このような外部とのつながりを築いておくことが大切です。

訓練・研修の形式は様々ですが、定期的に関係者が集まり、意見を交わし、顔の見える関係を築き、保っておくことが一番重要だと気づかされました。





## 世界を知る ～It know the world～

このページでは、「世界を知る」をテーマに独立行政法人国際協力機構(JICA)デスク熊本や、国際交流・協力分野で活躍している皆様のご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介いたします。

# 「スリランカにて」

青年海外協力隊 2017年度1次隊 本田 倫子 (ほんだ ともこ) さん  
(2017年7月～2019年4月 スリランカ派遣 職種：ソーシャルワーカー)

私が青年海外協力隊に参加しようと思ったのは、以前フィリピンへ語学留学をした時に、多くのストリートチルドレン達を見て大きなショックを受けたことがきっかけでした。

たまたま違う国に生まれただけで、生活環境がこんなにも異なってしまう。貧しいのは子供達の責任ではなく、周りの大人の責任であるはずなのに、支援が行き届いていない状況に啞然とし、微力ながら何かお手伝いが出来ないかと思ひ、協力隊に応募しました。それまで福祉関係の仕事をしていたので、その経験が活かさればと「ソーシャルワーカー」としてスリランカで活動することになりました。

首都から300キロ以上離れた地方の社会福祉事務所に配属となり、特別支援学校や高齢者入所施設で活動しました。特別支援学校では、廃材を利用した教材の作成やアクティビティの実施、教員への障がい児対応に関するアドバイス等を行い、高齢者入所施設では健康管理の為に血圧や体重測定、介護予防体操の指導を実施しました。

私の活動がどれだけ現地の人々の生活状況改善に役に立ったのかは分かりませんが、私が学校や施設に到着するといつも皆とても喜んで話しかけてくれ、その表情を見ると「今やっていることは間違っていない」と思うことが出来ま

した。

スリランカでの活動は大変なことやつらいことの連続でしたが、人間慣れるもので、2年もすると毎日の停電や水シャワー、手を使った食事、手洗い洗濯が日常での「普通」となりました。

日本でもご存知の方がいらっしゃると思いますが、スリランカでは2019年4月に

同時多発自爆テロが発生し※、多くの死傷者が出ました。私の任地の教会も爆破され、30人近く死亡しました。多民族国家であり、4つの宗教、2つの公用語のあるスリランカでは民族間の対立が根深く、2009年まで内戦もしていました。選挙の度に情勢が不安定になっていたのも事実です。今回のこの事件をきっかけに、平和であることの尊さと有難さを日々感じています。

日本では突然隣にいる人が急に爆弾を爆発させることも、突然町で銃撃戦が始まることもあります。日本で生活していると、平和で便利で、豊かな日常が溢れていますが、海外ではそのような国の方が珍しいかもしれません。私たちが日本で当たり前のように享受している「平和」と言うものがどれだけ尊く有難いものなのか、改めて気づかされる機会となりました。

今後は、このボランティア活動の経験を地元熊本へ還元していきたいと思っています。

※本田さんはこのテロの影響で、特別任期短縮で予定より早く帰国されました。



ゴミ拾い活動をした時



特別支援学級での活動



高齢者施設での活動

わよつと Japanese Tip  
日本語

NPO法人日本語サポートあさ

代表 小川 ひろみ さん

ベトナムの日本語教育の現場から その2

海外日本を目指すベトナムの若者の急増と共に、ハノイの街角では日本語学校がめずらしい存在ではなくなっています。来日してからの職場環境は暗くつらいもののように報道されていますが、少なくとも、ハノイの日本語学校で勉強する彼らは明るい将来に目を輝かせて熱心に日本語を学んでいます。ベトナム人教師が多い中、日本人教師による日本語クラスは彼らにとって、また私たちにとっても毎日毎時間が異文化の連続です。

先日、日本の歌をリクエストされました。「では、みなさんが先にベトナムの歌をうたってください」どんな歌を歌うかと思いきや！ 相談することも、ざわつくこともなく、一斉にすぐさま歌いだしたのは「ホーチミン様の歌」ベトナム建国の父、ホーチミン主席を讃える歌でした。世界各国の若い外国人学生を相手にしていると、何度もこのような場面にあうことがあります。そしてその都度、各国の英雄を讃える歌や国歌を聴きました。「ホーチミン様の歌」の後、今回も私はリクエストにより「ドラえもん」を歌いました。テレビ放映されている日本の人気アニメに学生たちは大喜びし、ひらがなの歌詞を書き留め、みんなで元気よく歌で日本語を勉強しましたが・・・。「ホーチミン様」のお返しが「ドラえもん」。ちょっと日本や日本人のことを考えました

きふプロ インターシップ生、サポートセンターボランティアの皆さんが綴るKIFのアクティビティ インターネットでもっとたくさん紹介しています。  
http://blog.goo.ne.jp/kifblo

こんにちは！インターン生の小山です！

出前講座でベトナム料理を作りました。

ベトナム出身のハン先生をお招きし、今回作った料理は「フォー」と「生春巻き」です。フォーのスープは長時間煮込まなければいけないそうなので、先生が事前に作っていただきました！

鶏がまるごと2羽入っていたので驚きましたが、ベトナムではこれが普通だそうです。

スープの中に生姜、大根、玉ねぎをいれてさらに煮込みます・・・だんだんいい香りが漂ってきました。

生春巻きもみんなと一緒に作りました！生春巻きを作るのは初めてという方が多かったため、みなさんととても楽しそうでした。

こちらが完成品です。どの料理も砂糖・塩・ナンプレーのみというシンプルな味付けでしたが、あっさりしていてとてもおいしかったです。みなさんもぜひ作ってみてください。



☆2020 (令和2) 年度賛助会員募集！☆

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団では賛助会員を募集しています。当事業団の活動にご理解とご支援をいただくと共に、さらなる国際交流や国際協力の輪が広がることを願っています。

①個人会員 一口 2,000円/年(一口以上) ②団体会員 一口 10,000円/年(一口以上)



**熊本市国際交流会館 国際交流サポートセンター**

開館時間 午前9時～午後8時

多文化共生オフィス TEL:096-359-4995 (直通)

休館日 第2・第4月曜日、年末年始(12月29日～1月3日)

Civic Support Center for International Exchange and Cooperation  
Kumamoto City International Center

Service Hours 9:00a.m. -8:00p.m.

Multicultural affairs office Phone:096-359-4995(Dial-in)

Closed: 2nd and 4th Mondays of each month, Dec. 29th-Jan. 3rd